地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

（1） このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。

（2） このデジタルアーカイブの利用に際しては「東京大学経済学図書館電子資料利用規則」に同意したものとみなされます。

（3） 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。

（4） 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。

（5） 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

（6） 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

0000 0964

(5)

建設局次長

建設局次長
昭和十八年三月

八幡製鐵所視察記

陸軍報道班員 大江賢次

日本製鐵株式會社
本社産業報國會事務局

（以印刷代謄寫）

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0965

はしがき

本篇は、大東亞戰爭勃發と共に陸軍報道班員としてジャワ島上陸作戰に從軍し報道戰線に活躍せられた歸還作家大江賢次氏の、「八幡製鐵所視察記」の全文である。

先般、讀賣新聞社・大日本産業報國會・日本文學報國會共同主催による「生産戰場躍進運動」のため、歸還作家諸氏が全國各産業部門の重要職場に派遣せられたとき、氏はその一人として、當社八幡製鐵所を往訪せられた。

其の訪問記は、既に、去る三月六日附「讀賣報知」朝刊紙上に發表せられたが、本社産報事務局は、より詳細なる視察記の執筆方を依頼中の所、このほど寄稿を得たので、取敢へずこゝに高覽に供することゝした。

本篇に吐露せられるところは、近來偉大なる成果を擧げるに至つた「大東亞戰新記錄月間運動」に對する忌憚なき評言、養成工の問題、勞務者管理機構の問題、勤勞文化の重要性……等々を主とするものであるが、人間の眞實を見究めんとする作家としての勘——とくに、戰場に於て

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0966

生死の境に洗はれた眞卒にして濁りなき眼を以て製鐵所の人とその環境を觀察されたところに、われわれの採つて以て參考とすべきものが少くないと信ぜられる次第である。

昭和十八年三月

八幡製鐵所視察記

大江賢次

一

視察期間が短いのに、尨大さはまる八幡製鐵所のすべてを知らうと志すのは、いはゞ巨象を撫でる盲人のやうなものである。僕は、それを恐れた。このごろは殊に、『知つたかぶり』が多く、その輩の類に洩れず皮相的なものが横行して、やゝもすれば神聖なもの、眞摯なもの、を歪曲し勝である。どうやら僕もその範疇に墮しさうなのが、とても恐ろしいのだ。

ともあれ、唯一つ心強いことがある。それは僕の心眼が南方戰線から歸りたての、比較的濁りのないといふ自信である。それをたよりとして、ごく謙虚な氣持で製鐵所を訪れることにした。

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0967

以下は、僕の飾りのない實感の羅列である。

近代文明の根幹をなすものは鐵である。鐵を差引いたら後に何が殘るだらう。鐵へ對する恩惠は絶大である。ことに大東亞戰爭となり、彼我の死鬪を展開してゐる現在、鐵の多寡が勝敗を決するとも云へようだけに、鐵への熱意と信賴は一層である。その鐵の生みの親である製鐵所は、熔鑛爐の巍然たるうそぶきや、壓延機のすさまじい唸りや、すべての設備がわれ〳〵の日常生活とは緣の遠い、一ト口にいへばいかつい存在で、直面しただけで威壓を感ぜずにはゐられない。想ふに、この威壓感や畏敬感は、僕たちの祖先たちが永い原始生活を經てきて、自然に則して生きてゐた血が僕たちにも流れてゐるために、人智によつてかくもめざましく鐵を生む術をしんから馴染めないからなのであらう。たしかに僕自身にしても、前線で絶えず鐵とは密接な關係の中に暮してきたのにかゝはらず、いざ製鐵所に近づくと或る一種の威壓がのしかゝつてくるのを覺えた。それは、恐れでもあり、また昂奮でゞもあつた。とにかく平靜な心のありかたではないのだ。そこで僕は考へた。なるほど、馴れたらさうでもあるまいが、工場が人間に與へる則載並びに影響の如何によつて、精神的にも肉體的にも大きな結果をもたらし、ひいては全能率に及ぼすもの甚大なるものがあらうと。心ある人は工場管理の中に、工場や機械その他の施設萬端を出來

るかぎり藝術的な形態配置を心がけてゐるが、これは見榮などの問題ではなくて、工員の健康と能率に大切である。何も、熔鑛爐の形式をもつと藝術的に直せといふのではない。鞠呑みにしては困る。僕の希望といふのは、既存の施設は改良の可能な程度に、ほんの一寸したことでも工員の氣持よく働けるやうに、工員の身になつてすべてを考へて、もつと潤ひのあるやうに改良をされ、これから作る施設は十分にさうした意味のものを加味されたい。八幡製鐵所は創業も古く、それだけに工場施設なども改良さるべき點が多い。口先だけでいくら增產を呼びかけても、實が伴はぬ限り詮なきことである。

こゝでは、他に率先して『新記錄月間』の新しい試みを實行して、素晴しい成果をもたらしつゝある。これは產報の創意であるが、各職場は懸命になつて働き、さすがに『八幡魂』を存分に發揮してゐる。その成果の實數はこゝに揭げないが、この各職場の眞劍な働きぶりを目擊して、僕はじつのところ涙がながれた。前線の兵隊にも劣らぬ意氣込みである。ありがたくて、たゞ頭が下るばかりだつた。この『新記錄月間』の試みは美事に成功した。產報ではこの試みと伴つて『職場鍊成會』を組織して、產業戰士の諸君の働いてゐる職場へ直接に出かけて、講演、映畫、演劇と、次々に硬軟とりまぜて側面から鼓舞の突擊を繰返してゐる。これまた成功であつた。僕

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0968

も出來得るかぎり、短い休憩時間を利用して職場で講演を行つたが、豫想を裏切つて一同は靜肅眞摯で、講師の僕の方が面喰ふほどであつた。動作すべては軍隊式である。一齊に僕をみつめる眼差は鋭くてまぶしい程だ。僕は前線の體驗談をごく具體的に語つた。理窟つぽいことよりも、事實を皆は求めてゐる。若い瞳が涙ぐんでゐる。僕もつい誘はれて聲が曇つた。そして講演が終ると直ちに職務に從事してゆく態度は、しつかりとしてゐてきび〳〵とたのもしく、後姿へ合掌をしたいおもひであつた。僕にしても、講堂で勿體らしくやるのよりも、神聖な職場でぢかにやる方がどれだけ氣に張りがあつていゝか分らない。各地の工場を廻つてみたが、こゝ位產報が張切つて、增產と四つに組んでゐる所は知らない。

新記錄樹立——これは現在のやうな色々な條件のよくないときには至難なことである。第一回は三ヶ月計畫だが、これは次々と繼續されることであらうし、是非繼續して欲しいものである。他の工場でも早速實行されることが望ましい。たゞ、僕はこの輝かしい實踐をより光あらしめたい爲に、若干の疑惧を感じてゐる。それは次に記さう。

二

よくない條件下で、よい條件の時の記錄を破るといふことは、ひとへに職場の團結に俟つ以外にはない。つまりは、工員各自の氣構へが約束をする。勿論、物と人との比例が合致しなければならぬが、この場合、物よりも人の問題である。いかにして新記錄を作り、それを持續させてゆくか。こゝに指導部の重點がある。僕は、現在のまゝだと、一時的な現象として新記錄はなし得ても、いつしか再び逆戻りをせねばいゝがと案じてゐる。即ち、これだけの新記錄を作るために、餘分に消耗した工員の無理が、何かの形であらはれずにはゐないといふことである。

第一に健康の問題である。產業戰士の力は前線勇士の力と密接な絆がある。三ヶ月だけはすさまじい勢で頑張つたが、次の三ヶ月では非常に支障を來たす樣なことが若しもあるとすれば、差引零どころか害つた健康だけは損失を招く場合があらう。このためには、よほど保健に留意してほしいものである。無理によつて生じる疾病と傷害の防止は、職場錬成會と共に更に更に力瘤を入れなければなるまい。

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0969

第二は工具損耗の問題である。これも第一に劣らぬ大切なもので、何でもいゝから遮二無二新記錄を作らうと意氣込む結果、どうしても工具を亂暴に使ひ易いがために、折角の增產も數字だけはいゝが、そのじつ生みの親たる機械が損耗したのでは、大局からみて痛し痒しである。競爭心をあふるのも、一面に於て自重これ努めて愛機の心づくしがないと片手落になる。從つて新記錄樹立の審査にも、この點と睨み合せをなすべきではあるまいか。

第三は養成工の問題である。現在、職場の第一線にある戰士の次に、新しい希望と抱負をもつて邁進すべき養成工について、遺漏はないだらうか。東亞百年の計を具體的に固めるためには、もつともつと養成工に力を致すべきであらう。僕はその寄宿舍を訪れ、諸君と共に色々話してみたが、まだ遊びたい盛りの少年たちが、家鄕から遠く離れ、集團生活をしながら、大した不平もこぼさず言動共に凛としてゐるのを、うれしさを越えた或る悲しささへこみ上げたほどであつた。この諸君は、今指導の如何によつてどうにでもなる人生の岐路に立つてゐる。作家としての勘に間違ひがないとすれば、現在のやうなやり方で居れば若い諸君の心の中には、「今に一人前になれば先輩のやつてゐるやうな享樂が出來るのだから、それまで辛抱してゐよう」と獨善的なのぞみを夢みずにはゐられなくならう。これは小說の筋ではない。現實の眞實である。戰前の自由

主義時代のやうに、後から後から隨意に工員を雇入れることは出來ぬ。してみれば養成工こそは一家で例へれば子寶である。よき養成工を持つ工場こそ、何よりも誇らしい存在である筈だのに、やゝもすればこれに冷淡であるやうに見受けられるのは、『使ひさへすれば後はどうならうとかまはぬ』舊體制的根性と云はれても仕方あるまい。

第四は機構の問題である。前述の三つの問題にしても、當事者は皆よく知つてゐる事ばかりであるが、この第四の問題の壁にぶち當つて、折角の企畫も水泡に歸す場合を僕はよく知つてゐるつもりだ。一應は下意上達の路はあることはあるのである。しかし何と邪魔の多いことか。僕自身、いはゞ通りすがりの旅人のやうな立場で、この問題に觸れるのはあまりに無鐵砲すぎるが、これは單に一つの課題として呈出するのであつて、解決は種を蒔いた者が刈らねばならぬ。素人目にみて、八幡製鐵所の傳統が永く官營であつたが爲に、どうも官僚的雰圍氣が濃厚に感じられた。官僚的なもの必ずしも惡いとは云はぬ。云はぬが、簡素に捗るべき急務を煩雜な機構に堰かれて澁滯させるやうなことがありはしないか。八幡製鐵所は、今やすでに國家の、從つて僕たち一億國民の八幡製鐵所である筈であつてみれば、機構をこの上にも決戰的體制化して載きたいと云つても、では具體的に指適せよと突込まれゝば當惑をしない譯にはいかぬ。が、例へば、養

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

成工の寄宿舎での諸君の希望の中に、一室に机が一つでは足りぬといふさゝやかな件があるが、想ふに、若しこれを實現させるためには何某課を書類が通り、更に何某長の捺印が必要となり、遂に宙で迷つてしまひ、ふるさとへの便りを認めるべき神聖な志を葬つてゆく——これは、些細な事柄であるかも知れぬ。が、擴がれば大きくなる。こんなこと位は重點主義の觀點外とは云はさぬ。長たるもの、その德を積まずしてどうして衆を從へられようぞ。上の者が頬かむりしてゐて、下の者に裸になれと云つたとて甲斐ないことである。職場に於てはこめかみから血がにじむ位に新記錄樹立に戰つてゐるのだから、この際上部に於てもこれに呼應して、事務機構改善促進の新記錄を樹立してほしいものである。

三

前述したやうな愚見を綜合して、僕は僕の立場から更に希望を提唱してみたい。

といふのは他でもない、職場へもつともつと文化を推進包含することである。このたびの大東亞戰爭にも、われわれは軍に協力して宣傳班員となり、作戰間は對敵宣傳に、作戰後は文化全般の建設に微力ながら御奉公をしたが、このやうな意味合ひから銃後産業戰線に於ても兩者が親密に提携して實を擧げることが望ましい。文化と云つても廣いのである。狹義に解釋せず、臨機應變の處置をとり、大いに增產躍進を計らなければならぬ。僕たちも今や書齋に閉ぢ籠つてばかりはゐない。僕たちは僕たちの職能に應じて、在來の取材作風の上に新しい生產文學を築かうと志してゐる。更に職場へ出向いて產業戰士の諸君へ、直接に働きかける勞に吝ではないつもりである。すでに氣運はむいてゐる。職場では門をひらいて手をさし伸べてほしい。

僕は思ふ。あの八幡製鐵所の熔鑛爐や壓延機の逞しい生活の中に、なにがなし心の和むやうな施設があつたならば、立働きながら、ほんの少憩のときをり、どれほど戰士諸君の精神的な糧となることだらう。一鉢の草花もゆるさぬほどのゆとりがないのではない。一枚の畫を掲げられぬほどの嚴しさがあるのではない。勤勞にははづみが大切である。はづみがなくては毬も飛ばぬではないか。その勤勞が烈しければ烈しいだけ、憩ひや慰めの償ひが伴はぬと疲勞は倍加する。人々は、今日最小限の個人的享樂に甘んじながら、最大限の國家的奉仕を行つてゐる。その辛さ、その苦しさを少しでも減少させ、それだけ能率化したならば兩者共に益するわけである。

かうしたことの計畫は、直接的に數字で表はれぬために、まゝゆるがせにされ易いものであ

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0971

る。そして後になつて苦汁をなめるものだ。近代文明がこれほど高度化したのにかゝはらず、舊態然として現狀維持策を續けながら、增產を叫び、このせつの工員はだめだ等と云つたところで面上の唾であらう。產業戰士の諸君は他の諸君にも增して時局を認識してゐる。日夜手がける品が直接前線で役立つからなのであらう。文化を求め、知性に飢ゑてゐる。眞劍に要求をしてゐるのだ。自由主義末期の頃のやうに、文學かぶれや映畫のぼせはなくなつた。すべての文化も健實化してゐる。むしろ昨今では知性ある者こそ能率向上者である。產業面も益々複雜化してくるのであるから、戰士にもそれに對應處理できるやうに、不斷の文化交流をなすべきである。

これらの問題は、經濟的にみれば實に些細なものであつて、なすなさぬといふのは指導者の頭腦の如何である。現在實施中の職場錬成會ぐらゐでは燒石に水である。それにもかゝはらず能率に好影響があるといふではないか。僕は熔鑛爐の下で、僕ののぞむやうなふうになつたときを心に描くと、胸の躍るのを禁じ得なかつた。長期戰下、さあ、いつまでもやるぞと、心たのしく、力たのもしく、孜々と働くさまは、心に描くだけではなくて實現すれば猶更うれしいではないか。名士の修養講演もよろしからう。が、そればかりでは飽きる。飽きるといふことは苦痛である。映畫、演藝、音樂など多彩に、戰士の肉體的支出に對して精神的收入を與へたい。勝抜くといふことは標語ではない。實行なのである。これらのものを職場へ直接に持つてゆくといふ思ひつきは、たしかに成功であつた。

これと同時に、職場外の各家庭へも働きかけたいものである。ことに主婦に對して、鹿爪らしくない方法で精神的訓練を行ふことは、職場と併行して必ずや好結果をもたらすことと思ふ。貯金はうんと出來たし、使ひ道はないし、まあせいぜい體を大事にして——といふやうな言葉を耳にしたが、善良な本音として微笑みながら獨りで頷いたものだ。しかしながら、ふと、この言葉の蔭に主婦の俤を僕はおもひうかべて、寒々しい氣持になつたものである。主婦は主人よりも世事にうとく、豐かな世帶の中に心驕るものがないではない。それぞれの會どもあることと思ふが、この會を利用して啓發するすべが澤山あらう。こゝまで考へ至ると、これらの諸般の事項を指導すべき產報の存在と使命の重大さが、果して會社の中にどれだけの位置を占め、どれだけの理解があらうかといふことを僕は本氣に案じるのだ。古きものと新しきものとが、たがひに相容れず相爭ふのは宿命でもあらうが、先見の明に篤い主腦部の人は、まづこの大本の礎をしつかりと固めることであらう。そのかはり、產報自體に於ても誠實な人材を用ゐ、在來の機構を反省吟味して改革されるべきである。會社主腦部と產報事務當局との、齒に物着せ

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0972

ぬ明快さはまる交流は、鐵の産聲をますます大ならしめるに違ひない。

一億の中の自分一人ぐらゐどうでもいゝではないか、しかも、日本は勝たなければならぬ。——この大きな矛盾を誰しも抱いてゐるのである。この個人の慾望を國家の慾望に高度化してゆかねばならぬときに、われわれはよほど氣をひきしめて個人認識を改める必要がある。敵は米英ばかりではないのである。實に僕たちの個人の魂の中にも棲んでゐるのだ。その敵を熔鑛爐の中へ投げ込まう。そして、日ごと夜ごと、鐵を生まう。あたらしい榮光の源を創造しよう。八幡製鐵所を愛すればこそ、かのドンキホーテの如く、僕は貧弱なペンの槍をふるつた。ゆるしたまへ。

熔鑛爐に擧る戰果

不屈の鬪志は全職場にたぎる

——八幡製鐵所を訪ねて——

大江賢次

本篇は、讀賣新聞社より派遣された歸還作家大江賢次氏の八幡製鐵所訪問記であり、「職場の報告」と題して「讀賣報知」（昭十二月六日附）紙上に發表せられたもので、弘く國民大衆の胸奥に、戰ふ製鐵所の精神を傳へて多大の效果を獲したものである。

いま、「八幡製鐵所視察記」を以て小冊子を成すに當り、とくに讀賣新聞社の許諾を得てこゝに轉錄し、以て大方の御參考に供する次第である。

大東亞戰下最も必要とするものは何かと云はれたら、どんな幼い子供でも『鐵』と答へるだらう。その鐵の生みの親である八幡製鐵所は、今、海を越えた遙かな前線へ、一刻も早く、一つで

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0973

も多く、あらゆる軍需品を送らうとして勵んでゐる。齒ぎしりをして頑張つてゐる。

◇

日ごとのニュースを、刻々と各職場に放送してゐるが、そのたびごとに産業戰士たちは自分達が直接に作つたものが役立つたことを知り、ある時には歡呼の聲をあげ、ある時には敵愾心に燃え、目に見えざる絆を感じて前線と同じい氣魄にみちみちてゐる。つい先だつてのレンネル島沖海戰のときも、あの戰果に直接役立つた機材を作つた職場は、涙をながして喜んで、もつともつと能率增進に努めてゐる。（編者註。木鉦時報鐵の光第四八號並八幡時報くろがね第七一六號參照）前線から歸還してきた僕自身も、職場で一緒に暮してみて、これは前線にも劣らないと思ふほど猛烈な力みぶりである。

◇

ここは、名にし負ふ九州男兒によつて固められた産業第一線「八幡魂」を誇つてゐる。○○基の熔鑛爐は息つぐひまもなく鐵を生み、生れたばかりの鐵はみる〳〵間に各工程を經て、米英に勝つために巢立つてゆく。その早さ、誠にすさまじいばかりである。全員を合すれば○個兵團にも及ぶといふ。もはや、一つの工場とよぶにはあまりに巨大過ぎる。全工場を丹念に廻れば二ケ月を要するのだ。だから、製鐵所内の交通はすべて專用の列車とバス、歩いたら日が暮れる。

玄海から西風が强く吹くが、熔鑛爐の煙で八幡の空はいつも曇つてゐる。熔鑛爐は、一億の國民が熱誠あふれる銅鐵の回收品も加へて、千三百度の熔銑を晝夜○回に亙つて迸らせてゐる。外は寒いが、ここは四十五度、熱帶から歸つた僕も顏負けのていだ。この熔鑛爐と共に四十四年、孜々として働いた田中熊吉氏（七十一歳）は、先に勤勞顯功章を授けられたが、（編者註。木鉦時報鐵の光第四八號參照）孫に等しい後輩と共に今もなほ鐵と戰つてゐる。製鐵の大先輩を『宿老』と敬稱してゐるが、宿老は現在三名ゐる。四十年以上勤續が八名、廿年以上となると六千名もゐる。こんなに永年勤續者の多い所が何處にあらう。祖父、父、息子と三代續いてゐるもの、又は家族五人が勤めてゐるもの等は珍しくない。いかにして勝拔くか——銃後生產戰に於ても、敵の生產力を制壓してゆくために、增產あるのみである。

◇

八幡製鐵所の產業報國會では、昨年十二月八日を期し全國に魁けて『大東亞戰新記錄月間』の

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0974

火蓋を切つた。十二月から向ふ三ヶ月間、それぞれの職場に於て工夫と創意を發揮して、前線の勇士の赫々たる武勳に應へて、增產に少くとも大東亞戰勃發以來の新記錄を樹立すべき、總進軍を行ふことになつた。

よし、やるぞ。よその職場に負けてたまるものか。

各職場では、職場大會をひらいてまづ目標の決定をして報告をした。新記錄の目標には二種類あつて大東亞戰以來のものと、創業以來のものとがある。よし、やるぞ——とは云ふものゝ、實際、これは大變なことであつた。以前のやうに、いはば何不足のない時ならばまだしも、あらゆる點で不足な現在、新記錄を作るといふことは至難である。だが、前線をみるがいゝ、皇軍勇士はもつと比べものにならぬ惡條件をも克服してゐるではないか。これが出來ぬのでは前線の兵隊さんに濟まんぱい！

狼煙は上つた。やると誓つた以上は後へひかぬのが八幡魂の八幡魂たるところだ。

今まで決して怠けてゐたわけではない。懇ふひまなく働いてきた。だが、新しい決意をもつて進軍をはじめると、もうこれで十分と思つてゐたものが、まだまだ餘力のあつたことを發見した。產業戰士たちは鐵に挑み、職場の戰友を勵まし合ひ、齒をくひしばつて戰つた。一時の無理のために、長期の支障を來しては蚯蜂とらずである。健康に注意して、最初の一ヶ月を終つた。

あゝ、萬歲、新記錄だ、不可能を可能としたのだ。

その戰果は、創業以來の新記錄十一ヶ所、大東亞戰爭以來が廿一ヶ所合計卅二ヶ所であつた。

さあ、かうなると誰しも競ひの精神が白熱せずにはゐない。新記錄を作れなかつた職場は肩身がせまい。今度は是非どんなことがあつてもやり拔かう。そして再び第二ヶ月目へ突擊をした。

果して前月よりも大戰果が擧つたのである。十二月は百六十七件だつたが、一月は二百五十八件、しかも內譯をみると創業以來の記錄と大東亞戰以來のとが、件數は各々百廿九件づつであつた。

この增加に自信を得た產業戰士たちは、いよいよ最後の第三ヶ月目に白兵戰的突入を敢行した。

その中へ、僕が飛びこんだのだから、すさまじき限りであつた。

よし、僕とて負けてたまるものか。

◇

ここでは、すべての規模が尨大なために講演の如きも到底一ヶ所で濟ますことは出來ず、しかも作業は片刻も休めないから各職場へ講師が進出して、ちよつとした休憩を利用して行ふやうに

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

なつてゐる。僕は、晝夜續け樣に各職場をめぐつて講演をした。これまた僕は僕なりの誕生以來の新記錄を作つた。製鐵所ではこれを職場鍊成會と稱してゐるが、硬軟とりまぜて絕えず產業戰士の第一線を鼓舞してゐる。考へてみるがいゝ、巨大な熔鑛爐や壓延機の傍で、浪花節や講談をやつてゐる樣を——。僕は、戰前にはよく工場へ行つたものだが、今、かうして職場に立つて話してゐると、雰圍氣がすつかり變つてゐることに氣づくのだ。何と云つていゝか、兵營と同じい嚴肅味が漲つてゐる。その聽きぶりの眞劍さは格別である。斜めに射しこむ早春の陽にキラリと淚が光つて見える。講演が終ると一齊に機械のもとに走り、交代の戰友に代つてゆく。廣い靜かな講堂でやるのは、もはや舊態勢になつた。これからは、すべて、あらゆる文化を直接に職場へ持込むべきだ。

◇

夜、戸畑の養成工寄宿舍へ行つて、親の膝元から離れたばかりの諸君と夕食を共にした。食前には一齊に合掌して目を閉ぢ「美はしうしてうまき夕食、今饗く、希くはわれ人もろともに心身壯健にして同じく正道に進まんことを。食を饗けては正に眞理を心の食とし、噛み碎きて諸德の味を知らんことを祈る。頂きます』と云つてから箸をとり、食後には『飯食終りて、身力みちたり。勇氣前に倍して事を爲すに堪へん。いでや奮つて己が業にぞいそしまん。御馳走さま』と云ふ。

◇

講演のあと、座談會をひらいた。何か日常生活の希望はないかといくら訊いても、前線の兵隊さんのことを想へば、と云つて却々洩らさない。しかし、やがてぽつりと口をひらくのを聞いてみれば、兎を飼はしてほしい、机を殖やしてほしい、ピンポンがほしい、ニュース映畫を見せてほしい、入浴設備がほしい等で、いかにも十七歲の少年らしい微笑ましい望みであつた。が、僕は微笑みながら、何か或る心塞いものを感じてきた。といふのは他でもない、これらの若い戰士たちへ對する設備の完備よりも、(勿論これも望ましいが)しんみな愛情のそゝぎ方が足りないのではあるまいかといふことである。舍監は實に熱心であるが、舍監が全權を持つてゐるわけではない。あまりに複雜な機構のために下意上達が熔鑛爐の『棚吊り』になつてゐると、この次の時代を擔ふべき戰士たちをいびつにしてしまふ。

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

0000 0976

◇

僕が前線で學んだ一つのことは、前線に行けば行くほど戰友愛が密であり、上下の隔たりが融け合つてゐたことだ。それは、口先だけの理窟ではなくしんみな誠實のこもつたものであつた。この精神のありどころを産業第一線にもあらせたいものである。産業第一線に前より倍して健全で潤ひのある文化の新風をそゝげ。湧き出る泉のやうな力を僕たちは戰士の胸へ贈らう。

〝心（こころ）の糧（かて）〟は増産の力

現場にきく職場錬成會の反響

〝産業第一線に前より倍して健全で潤ひのある文化の新風をそゝげ。湧き出る泉のやうな力を僕たちは戰士の胸へ贈らう〟と大江氏は呼びかける。いま八幡はじめ各作業所では、講習に講演に娯樂物に、種々の企てを現場に迸出させて産業戰士を鍛成し、鼓舞し、激勵してゐるが、かくして注入される〝心の糧〟が、鐵鋼增産にいかに大きい力となつてゐるか、數的に算定することは困難であるけれども、この反響を現場の聲に聞けば、其の效果の偉り難いことが知られる。寄せられた多くの反響のうち、こゝにその一つを採り上げ、本册子に附錄して御參考に供したいと思ふ。

昭和十八年二月二十二日

八幡産報事務局宛

八幡製鐵所某掛長

東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782

一、錬成會開催日時　昭和十八年二月二十日午後六時——七時十五分
二、錬成會種類　時局漫談「シンガポール攻略戰秘話」（松浦　冠山師）
三、出席者　合計二五〇名　○厚板特丙常書勤全員一七〇名と外に○分塊○中形事務工務掛各一部計
八〇名

四、錬成會の成果と感想

當工場全員に聞かせるために特甲特丙交代時を選んで錬成會を催した次第であるが、わが○厚板工場の如く特別の交代（現場交代）では、交代工員は午前五時頃より自宅を出で夜は八時頃家に歸り着く有樣で、全く構外で祭日、元旦もなしでは尚更の事で、實際に現在の工員は「心の糧」に飢えて居る。斯かる時に、誰れもが聞きたがり、知りたがつて居る軍談秘話であり、且講師の漫談混りの熱のある話は、全員を魅了し去つて感激亦一入であつた。「近頃久し振りで良いお話を聞かせて貰ひ感激の涙が出ました……」と異口同音に語る工員の言葉は、強ちお世辭では無かつた。所謂、砂漠に於ける「オアシス」に會つた時の心持の樣に察せられた。

此の錬成會のために、作業は其の間約二時間計り休止した。最初から一時間、二時間位の休止は作業員の精神力如何によつて或程度迄生産は取戻せると云ふ自信はあつた。初めの考へでは、一週間の平均日産が○○○瓲位だから、それから推算して日産○○○瓲程度を豫想して居た處、翌朝其の前日の實績を見た處、○○○瓲と云ふ今週に於ける珍らしい成績を擧げ得て愉快を禁じ得なかつた。果して、仕事も作業も戰爭と同じく精神力で左右される事を痛感した次第である。

五、希　望

今後も斯かる催し物は、月一回か、二回是非共やつて慾しい。之がため減産云々に就ては決して心配せずともよいと思ふ。恐らく各工場の掛長も同感ならん。寧ろ增産への心の糧であるから、今少し積極的に出て、從業員のため生産擴充用の「新しい心の糧」を探し求めて、どしどし配給して慾しい。硬いもよし亦或る時は極く柔いものも歡迎する。兎に角、一ケ月二回及三回從業員が樂しんで待ち憧れる樣にやつて戴き度い。

以　上

東京大学経済学図書館所蔵　野本氏旧蔵日本製鉄関係資料　5507492782

0000 0978



東京大学経済学図書館所蔵 野本氏旧蔵日本製鉄関係資料 5507492782